

令和4年度 第2回さいたま市博物館協議会 会議録

開催日時 令和5年3月17日（金）午後1時30分から午後2時40分

開催場所 さいたま市立博物館 講座室

出席者名 委員：江里口友子委員長、新美和子副委員長、小宮るり子委員、杉山正司委員、鈴木樹子委員、野田和美委員、橋本正晴委員、中村大介委員、初音みね子委員、丸井章弘委員、鈴木和博委員、清水俊彦委員、宮瀧交二委員（欠席：広田由子委員、牧野麗委員）

事務局：博物館長、博物館長補佐兼事業係長、同管理係長、同事業係主任、浦和博物館主幹、浦和くらしの博物館民家園主査、旧坂東家住宅見沼くらしっく館主査、与野郷土資料館主査

傍聴人 なし

さいたま市博物館条例第14条に基づき、令和4年度第2回さいたま市博物館協議会を開催しました。

会議名 令和4年度第2回さいたま市博物館協議会

博物館管理係長の司会により開会し、博物館長及び委員長のあいさつに続き、さいたま市博物館協議会規則に基づき、委員長が議長になり議事に移りました。

議 事

議長 それでは議事に入ります。最初の議題の令和5年度の事業計画について、委員の皆様から御意見や御質問がありましたらお願いいたします。

宮瀧委員 各館の予定は、とても検討されていて楽しそうだと思います。問題は、どう利用してもらうかということです。これからは、コロナ前のように遠足や社会科の授業の一環で、博物館に足を運んでもらえるようにしてもらいたいと思います。一方で、学校教育を対象にGIGAスクール構想やICT教育として、児童・生徒がパソコンを使った学習をしていることもあり、博物館に行かなくてもバーチャルの世界で博物館の展示を見学できたり、体験できたりしがちな傾向があるのではないかとも思います。ただ、コロナが収束した時は、やはり博物館は足を運んでこそだと思うので、ICT教育と並行してできるだけ実際に来館して学習に繋げる方向を検討いただければと思います。

事務局 学校の体験学習に関しては、現在は各館で対応できる人数に応じて受け入れするという、コロナ前と同様の状態に戻しています。

議長 何かご意見やご質問がありますでしょうか。

鈴木委員 浦和区の小学校長会で来年度の校外学習についての話になった時、今までは民家園で半日体験学習をするというのが定番のところ、電話での予約で取りづらいので、民家園以外のところにしようという声も出始めています。市内の小学校を優先的に、早い段階で予約できるようなシステ

ムがあると予定が立てられて学校側としても使いやすいです。現状では小学校が離れていくのではないかという危惧を抱いています。

事務局

市内の小学校の体験学習受け入れに関しては、必ず優先をしています。市内の学校は3月1日から、市外の学校は5月12日から予約の受付を開始しています。これまで民家園では、三密を回避するためにクラスを半分に分けて体験学習を実施していました。例えば7クラスだと14グループに分けて実施することになるので、対応が難しく、学校側が想定しているような体験学習はできなかったのが実情です。

議長

中学校の校長会として、清水委員からご意見はありますか。

清水委員

中学校の学習の範囲では博物館に社会科見学に行くというものはありませんが、実物資料に触れることは大事なので、貸し出しをしていただいたり、講師として来ていただいたりする形はあると思います。ただ、中学校の社会科の指導部会等で系統立てて依頼するには至っていませんので、そのような場で説明いただくと教員にも良いと思います。

議長

出前講座で中学校に行くことはありますか。

事務局

今年度は中学校での出前講座や資料の貸し出しはありませんでしたが、小学校に博物館職員が行って、お話をするというのが数校ありました。

議長

ありがとうございます。ほかにご意見ある方はいらっしゃいますか。

杉山委員

市立博物館、浦和博物館、浦和くらしの博物館民家園は登録博物館だと思います。4月1日から博物館法改正があり、デジタル化等も言われています。計画を見ると市立博物館のみがデジタル化の調査研究をして他の2館の予定には上がっていませんが、デジタル化への動きはあるのでしょうか。また、他館でも収蔵資料があるのでデジタル化されると思うのですが、統括してやるのかというのもお聞きします。分館の岩槻郷土資料館や与野郷土資料館は調査研究項目が上がっていませんが、館としてやらないのか、統括してやるのかも教えてください。

事務局

デジタル化については、市立博物館の事業予定にのみ書いてありますが、分館も含めて統括的に進める形を考えており、各館の学芸員にも協力していただく予定です。

議長

他にご意見ある方いますか。

新副委員長

今年の2月に見た「さいたま市のうつり変わりとおびとのくらし展」のイベントの「明かりの道具のうつり変わり」が大変面白く、火打石で火花が散ったりランプがついたり、最後は今使っている明かりまで見せてもらったのですが、講師はどなただったのでしょうか。また、「明かりの道具のうつり変わり」をパッケージとして出前講座はできますか。

事務局

出前講座に持って行ける資料は限りがあるので、できる学校と難しい学校があると思います。当館で行う場合、冬の体験学習のカリキュラムに入れてほぼ全ての小学生に見ていただいています。土日のイベントに来館する親子の中には、子供が1回体験学習で見て、興味を持って家族で見に来るパターンと、実演が目的で時間に合わせて来るパターンのいずれが多いようです。また、明かりの実演をしている講師は、紙芝居の

上演とセットになっていて、博物館からお願いしている2つの市民グループになります。

新副委員長 様々な体験がある中で、暗い中で明かりがついたり消えたりと、触らない体験ですが、コロナ渦においては良い企画だと思いました。

宮瀧委員 公民館の体験学習の類と博物館の講座は違うと思っています。例えば勾玉づくりでも、いきなり作り始めてしまうと工作教室になってしまいます。博物館の講座では、必ず装身具の移り変わりなどをレクチャーした後で勾玉を作るということ。工作教室と違う点は、博物館は実物資料を用いて見せることができる社会教育施設なので、物作りと同時に展示資料などを見せるという、博物館ならではの体験教室にするということをもう一度リセットしないと、全国の博物館の体験教室が単なる工作教室になっているという認識を持っています。レクチャーと体験学習、工作という形で行っていただけると良いです。

事務局 与野郷土資料館では、勾玉づくりの中で勾玉クイズをやっています。勾玉の形の意味や時代ごとの意味などの4択クイズをしたり、市内で出土した勾玉を写真で紹介したり実物を見るなど5分ほどした後、勾玉を作ってもらっています。このように、最初に意味を理解してもらってから作るようにしています。

宮瀧委員 いいですね。ぜひそれを継続していただけたらと思います。

中村委員 勾玉の意味は決まっていないと思います。どう説明をしていますか。

事務局 定説はないので、4択の全部が正解だと伝えています。

橋本委員 体験学習予約の件で、3月1日から予約が始まっているとのことでしたが、学校側として3月1日だと遅いということはないですか、大丈夫でしょうか。

鈴木委員 来年度の年間行事予定を組むことと、複数の旅行業者に何日にここに行きたいと言って見積もりを出してもらうことがあって、どちらかと言えば日にちを先に決めてから見学先の予約をしています。来年度、本校は民家園の予約が取れなかったので、別の所にしようと考えています。

橋本委員 博物館側からすると、年間予定が決まらないと受け入れができないとは思いますが、小学校では、早ければ12月の終わりごろには次年度の学校行事の計画ができていると思うので、少しでも博物館側の受け入れる日にちを早められれば学校側は助かると思います。

事務局 今年、例年より少し早めて3月1日から申込を開始しました。これより早くできるかどうかについては、今後の課題として検討したいと思います。

議長 他に何かご意見はございますでしょうか。無いようですので、引き続きまして、議題2「さいたま市立博物館第47回特別展」についての説明を事務局からお願いいたします。

事務局 第47回特別展についてご説明いたします。タイトルは仮称ですが「さいたまのハニワ」というテーマで計画しております。市内には約120基の古墳が確認されており、しばしば埴輪が出土しています。近年発掘

調査を行った桜区の本柰南古墳からは、馬形埴輪や人物埴輪を含む埴輪が数多く出土しました。これらの埴輪は、出土直後の最新出土品展で展示して以降、市民の方にはほとんど公開していない状況です。報告書刊行の際にきちんとした復元がなされ、見事なものですので、今回の特別展のメイン資料に据えるとともに、市内各所から出土した埴輪を特別展示室で一同に公開します。更に、埴輪の研究史にも触れながら、埴輪とは何か、どのような発展をしてきたのか、最後はなぜ作られなくなったのか、生産地はどこなのか、などについての展示を考えております。また、関連事業の一つとして、古墳の現地見学会ができないか検討しています。この展示の見せ方について、ご意見をいただければと思います。

議長
宮瀧委員

何かご質問のある方はいらっしゃいますか。

タイトルを「さいたまのハニワ」にしてしまうと、埼玉県は有名な埴輪が多く出土している地ですから、県内の埴輪が見られるのではないかと誤解する方がいるのではないのでしょうか。市内の埴輪を展示するという明確なものがあるのであれば「市」を入れたほうがいい気がします。また、埴輪をカタカナとした理由はありますか。漢字が読みにくいのであれば、ルビあるいは鍵括弧でふりがなをつけるというのが良いと思います。

事務局

タイトルは、ひらがなで表記することで「さいたま市」を表すものという発想です。埴輪をカタカナ表記にしたのは、小学生以上を来館対象にしており、「埴輪」の漢字は小学校では学習しないため、カタカナもしくはひらがなの読みやすい表記にしたいと思って考えました。ただ、今ご意見をいただきましたので、改めて検討いたします。

中村委員

タイトルは漢字でも問題ないと思います。さいたま市以外の県内の有名な埴輪について、三次元計測等が可能であればスペースを設けて紹介したらどうかと思います。市内の埴輪は本物、県内の埴輪は模型などで見てもらうのも面白いと思います。埴輪の色は、全て茶色で味気ないので、古墳の上空写真や復元の様子を三次元で見ることができたり、色を使って、子供たちが来ても楽しそうな展示にするのが良いと思います。展示の順番も異論はありません。本柰南古墳の資料はとても良いので、見学後に埴輪とは何だろうとつなげていくのは良い視点だと思います。

議長
丸井委員
事務局

ほかに意見はございますか。

特別展の日時の設定はどうされていますか。

市立博物館では、「夏休み子ども博物館」と冬の「さいたま市のうつり変わりとおびとのくらし展」の間に特別展を設定しています。外部の講師の先生にお願いする講座に関しては、先生の都合に合わせて決定した後、多くの来館者が見込めそうな日に展示解説を入れています。

丸井委員

テーマによって高齢者向け、若い人向けがあるかと思います。年齢層によって来られる曜日や時間帯が違うと思いますので、その点考慮していただきたいです。

事務局

展示解説の曜日に関しては、平日に来ることができない方にも聞いてい

ただきたいので、土日の午前11時と午後2時に行くことが多くなっています。日中の来館者のピークはおよそ午前11時から午後3時の間で、その時間帯に設定しています。

議長 展示はぜひ小中学生にも見てもらいたいですね。他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

小宮委員 今回の特別展で、埴輪のキャラクターを考えてみてはどうでしょうか。
事務局 キャラクターについては、これから検討してまいります。

丸井委員 シニア世代は比較的よく来てくれますが、子供たちには何かしらのアピールをしないと難しいと思いますので、埴輪について、楽しい展示にすれば来館層が広がるかと、とても期待しています。

新副委員長 写真がとても大切だと思います。このような所で発見されたものだ、というのを展示したら良いのではないのでしょうか。

議長 他にご意見はございますでしょうか。

初音委員 入口に埴輪がドーンと置いてあって圧倒されるような展示を楽しみにしています。やはりインパクトのあるものが面白いです。

議長 他にご意見がないようですので、次の議題に移ります。令和5年度浦和博物館テーマ展について説明をお願いいたします。

事務局 今回は、テーマ展として「縄文時代収蔵展」を開催いたします。サブタイトルは「縄文研究の幕開け～大谷場貝塚から馬場小室山遺跡～」を予定しております。当館は旧浦和市の博物館であったことから、旧浦和市に関連した資料を多く収蔵しています。当館が収蔵する考古資料のうち、これまでにあまり展示したことがないものにスポットをあて、大谷場貝塚から出土した土器をはじめ縄文時代の資料を公開し、この地域の縄文文化について紹介しようと考えております。関連事業として講座を2回予定し、学芸員による展示解説は、先ほどいただいたご意見を参考に曜日や時間帯を検討いたします。

議長 考古系の展示ということですが、何かご意見はございますでしょうか。
宮瀧委員 令和5年度末に、さいたま市史通史編の旧石器・縄文・弥生・古墳が刊行されます。この時期なら、講座に使えるような市史のデータは出来上がっている頃だと思いますが、先駆的な取り組みとして連携するなどの予定はありますか。また、文部科学省の補助金で、文化財保存活用地域計画を作成しているかと思います。従来の指定文化財の枠を越えて、今まで指定してこなかった食文化や方言や景観など市民が残していきたいものを選んでいくところですから、博物館のガイダンス施設として様々な役割を果たしていると考えていますが、こちらはオブザーバー参加していますか。浦和博物館のテーマ展は、市史刊行の宣伝の場にもなると思いますので、相互に連携がとれれば良いと思います。

事務局 文化財保存活用地域計画につきましては、庁内検討委員会に参加しております。また、市史刊行の関係では、アーカイブズセンターから資料を貸してほしいという話もあり、対応した経緯がございます。

議長 他にご意見はございますでしょうか。

中村委員 縄文海進の大きなパネルはお持ちですか。

事務局 浦和博物館にはありませんが、市立博物館の常設展示室で展示しているパネルがあります。

中村委員 当時がどのような地理環境で、どこに貝塚が造られたのかを知ってもらうことは大切なので、パネルがあると良いと思います。また、当時の人がどのような物を食べていたのかについて紹介したり、当時の生活がどのようなものだったのかを示したりすると楽しいものになるかと思います。市史の新しい図やデータも取り込みながら展示されると良いのではないのでしょうか。

杉山委員 先ほど宮瀧委員からタイトルが大事だというお話がありましたが、漢字ばかりでひらがながないのでタイトルを工夫されたほうが良いのではないかと思います。埼玉県立歴史と民俗の博物館は現在休館中ですが、再開直後に縄文展を予定しています。場合によっては担当と連絡をとって、ポスターやチラシと一緒に掲載する連携が図れると思いますので、問い合わせを試みたらどうでしょうか。

宮瀧委員 スンプラリーなどをやってもいいかもしれませんね。

議長 他にご意見はございますでしょうか。

鈴木樹子委員 協議会が始まる前に収蔵品展を見ました。私たちが子供の頃に見て接した物が展示されていて大変楽しく見させていただきました。映像の上映時間が15分と書いてあって、最後まで見ましたが、立ったままでは長くて少し辛かったので、椅子を置いていただくと、ゆっくりと落ち着いて見ることができると思います。

事務局 昨年の柿渋の展示の際は、映像の前に折りたたみ椅子を何脚か置いて見ていただいています。その点は改善します。

野田委員 とても内容がざっくりしている印象です。私は小学生の時に大谷場貝塚を探し回ったことがきっかけで考古学が好きになりました。馬場小室山遺跡という遺跡がありますが、この遺跡の土器が展示されるなら来たいと思う人がいるかもしれません。博物館の展示を見て、ただ土器が並べただけでは、小学生だとロマンを持ってないし、大学生ならもっとこの時代の文化や、文化の発展まで知りたいと思います。なぜその世代が来てくれないのかを考えながら、展示の仕方を考えると幅広い世代や地域から来てくれると思います。土器という資料を使って、様々な切り口で発想を広げて、幅広い世代の人が興味をもって見に来てくれるような展示にすれば楽しいと思います。

事務局 浦和博物館のテーマ展も仮題として提案していますので、今後正式なタイトルを考えたいと思います。どんな物を展示の対象としていくか、チラシやポスターを見た人が想像しやすいような写真や現物を使ったりするなど、検討したいと思います。

議長 他にご意見やご質問はございますでしょうか。無いようですので、本日の議事については、これで終了いたします。